

第 11 回 中部縦貫自動車道事業費等監理会議 議事概要

1. 開催日時：令和 7 年 3 月 28 日（金）16:00～16:30

2. 開催場所：福井県庁 地下 1 階 正庁

3. 出席者：福井県	土木部長	田中 克直
	土木部理事	平林 透
	道路建設課長	砂村 秀成
	高規格道路課長	小川 裕樹
近畿地方整備局		
	道路部長（代理：道路企画官）	渡邊 泰伴
	福井河川国道事務所長	野村 文彦

4. 議 事：

○大野油坂道路事業の進捗状況等について確認した。

（事業進捗状況）

- ・ 国より、工程精査中の大野油坂道路（九頭竜・油坂区間）の開通見通しについて報告があった。
 - 工程精査した結果、新子馬巣谷橋において発生した大きな地すべり面の存在や、P1 橋脚ケーソンの沈下不能、完成済み A1 橋台の沈下等の工事課題への対策について、抑止杭やケーソン長を 2.5m 伸ばす対策工事に約 2 年。更に今年度、調査・検討・設計等に約 1 年要したため、当初の令和 8 年春開通予定から約 3 年を要する見込み。
 - なお、これら追加対策により、理論上ケーソンが沈下することは学識者と確認しているものの、同様の事例が確認できず施工上の不確実性が高いことや、ケーソン沈下後も橋台の安定性を十分確認した上で工事を進めていく必要。
 - このため、新たな開通時期については、ケーソンの沈下が順調に進み、橋台の安定性が確保されることが前提となるが、令和 11 年春の開通を予定。
 - 一方で、その後の工程について、工程短縮の余地がないか引き続きの検討に努め、半年程度の前倒し開通を目指す。
 - なお、国道 158 号の斜面崩落により、少なくとも新子馬巣谷橋における追加対策工事の着手が遅れている状況であり、その他工事も含め、今後の工事工程への影響については、精査を行う。
- ・ 大谷トンネルについては、引き続き湧水が多く、地山状況が悪い状況であり、計画から約 5 ヶ月遅れであるものの、令和 7 年 3 月 20 日に貫通との報告があった。
- ・ 新下半原トンネルについては、大雪の影響により、約 3 ヶ月遅れでトンネル工事に着手したこと、また、事前の追加ボーリングで蛇紋岩の層が確認されたことについて報告があった。また、新林谷橋についても、引き続きリスクを有していることについて説明があった。

（事業費等監理）

- ・ 事業費については、対策工事の施工状況を確認しながら、引き続き精査を行い、精査完了後、速やかに結果を共有することの報告があった。

○福井県から以下の要請があった。

- ・ 新子馬巣谷橋の対策工事に期間を要することは理解するが、県民の早期開通に対する期待は高いため、工事の安全確保を前提に、引き続き、工程短縮の検討を進め、県内全線開通を一日も早く実現していただきたい。
- ・ 対策工の状況をふまえ、精査後の事業費をすみやかに示していただきたい。

以 上